



令和6年2月26日

杉戸町議会議長
伊藤 美佐子 様

議席番号13番 伊藤 美佐子

政務活動結果報告書

下記の通り、視察を行いましたので、報告いたします。

1. 視察日:令和6年1月23日(火)～1月24日(水)の2日間

2. 目的・場所

(1) 1月23日(火)

静岡県熱海市 「庁舎建設の取り組みについて」

(2) 1月24日(水)

兵庫県神戸市 阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」

3. 視察内容

(1) 静岡県熱海市 「庁舎建設の取り組みについて」

① 静岡県熱海市の概要

静岡県最東部に位置する人口約3万4千人、総面積61.77平方キロメートルの市で、熱海温泉などの温泉街があります。地形はほとんどが丘陵であり、別荘地や住宅地なども多くが高台にあり、道路も勾配の急な坂が多い場所です。

② 事業概要

1. 経緯

平成17年7月 基本構想策定(当初案:6階建 40億)

平成18年9月 現市長就任

財政事情により建設の1年延期と規模の縮小が決定

平成18年 基本設計

平成20年3月 A案、B案、C案市民投票

平成20年8月 新庁舎建設延期を発表
平成21年 分庁化に向けて方向転換
平成22年7月～平成23年3月 第3庁舎(旧文化会館)改修工事
平成24年6月～平成26年3月 新庁舎(第1庁舎・消防庁舎)建設

2. 新庁舎概要

建物名称：熱海市第1庁舎・消防庁舎
指定建ぺい率：80% (防火地域内耐火建築物 100%)
指定容積率：400%
工期：平成24年6月22日～平成26年3月31日
工法：システム建築工法 → 低コスト、短工期、品質の均一性、
外壁パネルGRCの採用
敷地面積：2944.23㎡
建築面積：1912.10㎡ (建ぺい率64.94%)
延べ床面積：5699.99㎡ (容積率193.59%)
構造規模：鉄骨造 地上4階建て
耐用年数：建物の法定耐用年数 = 38年

3. 事業予算

第1庁舎建設事業費	16億2226万円
第3庁舎改修事業費	3億3285万円
解体工事費	1億6240万円
立体駐車場建設事業費	2億5000万円
合計	<u>23億6751万円</u>

※ 第1庁舎財源：起債 11億1335万円
基金繰入 3億390万円

4. 庁舎建設に対する議会の関わりについて

- ・平成18年6月30日 庁舎建設等特別委員会を設置(議員7名)
- ・平成18年度～26年度まで43回開催
- ・その都度、議会へ当局案を諮り、議会の了承を得ながら進めてきた。

③ 調査結果（提言）

- ・財政状況が厳しい中で、庁舎建設に対する町民への理解を得るために丁寧な説明を求めます。
- ・建設費用の縮減そしてランニングコストも精査して検討を進めるよう求めます。
- ・DX推進を進めるとともに、手続き窓口のワンストップ化を進めてください。
- ・熱海市において、財政状況が厳しい状況によりコスト削減との考えから、既存庁舎を利用したことで複雑な庁舎となり、改修工事を行った庁舎も10年経過すると更に工事をしなければならない状況となった。財政状況にこだわりコスト削減にこだわった結果、もっと長期的な判断が必要だったことや、追加経費が掛かってしまったことが反省点と伺いました。杉戸町においても慎重に協議をお願い致します。

（2）阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」視察

① 兵庫県神戸市 阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」

1995年1月17日午前5時46分、兵庫県淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。高齢化が進む大都市を直撃し、6400人を超える人命が失われるなど、甚大な被害をもたらしました。人と防災未来センターは、この阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し、防災・減災の実現のために必要な情報を発信する施設です。

② 視察概要

西 館

2 F 防災・減災体験フロア

- ・近年、世界で起きている災害の実映像
- ・災害時に役に立つ減災グッズを紹介
- ・防災・減災ワークショップ

3 F 震災の記憶フロア

- ・震災関係資料を提供者とともに展示
- ・被害状況の映像や被災地の当時と今の映像、またパソコンでも紹介
- ・復興過程の生活やまちの姿をメッセージとグラフィックで解説

- ・ビデオで震災体験を紹介

4 F 震災迫体験フロア

- ・「5：46の衝撃」地震破壊のすさまじさを大型映像と音響で体感
- ・震災直後の町をジオラマ模型で再現
- ・「このまちで生きる」復興に至るまでのまちと人、課題を紹介する映像

東 館

1 F 「こころのシアター」

実際に災害に遭遇した時にどうすべきかを問いかける映像を上映

③ 調査結果（提言）

1月17日の阪神・淡路大震災から29年目を迎えたこの時に、「人と防災未来センター」を視察しました。予約制で平日ではありましたが、修学旅行生徒をはじめ一般の方が多く見学に訪れ、時期的なことは歪めませんが関心の高さを感じました。

首都直下地震は30年以内に70%の確率で起きるとされています。杉戸町は、防災・減災に対する意識が非常に低いと感じます。2月9、10日にすぎとピアで開催された協働型災害訓練も、自主防災組織や防災士に案内を出しているにも関わらず、杉戸町からの参加者は非常に少ない状況です。

そのため、防災・減災を考える機会を多くする取組が大事です。自主防災組織へお任せではなく、危機管理課が中心となって、積極的に助言・アドバイスを行う防災・減災研修会の開催、各地域での防災訓練の充実、特に避難所開設訓練（HUG訓練）を図るよう要望します。そして、災害対策本部訓練の毎年開催です。

また、防災士による協議会の発足を推進していただきたい。これは防災士の資格を取っても、町にとってその資格を活かす機会が地区合同防災訓練などしかないことです。さらにこの要望は、防災士からの声です。

防災強化策を毎年少しずつでも計画的に目に見える形で構築するよう強く要望します。